

# かわる版

第111号  
平成22年8月1日発行

(発行)  
富山大学附属病院  
病院広報室  
076-434-7019

## 目次

- 副病院長からのメッセージ . . . . . 1
- 診療科紹介 . . . . . 2
- 最新医療探訪 . . . . . 4
- ナースステーションから . . . . . 5
- 【特集】一人前の医師を目指して . . . . . 6
- 食と健康 . . . . . 8
- 地域支える開業医さん . . . . . 9
- 地域連携研修会 . . . . . 10
- 患者さんへのお知らせ . . . . . 11
- イベントコーナー . . . . . 12



「サザーランディ」  
(患者さんが書かれた絵です)

## 副病院長からのメッセージ

## ～病院事務職員の役割に想うこと～



副病院長(事務担当)  
松本 憲一

### ◆大学に勤める前◆

大学病院にはドクターがいて、看護師さんがいて、いろんな技師さんがいて。あれ？窓口にいるのは事務員さん(診療費を払う人?)。ほかにも結構多いなあ？何をやる人？愛想も良くないし・・

### ◆大学事務を担当◆

附属病院ってお金かかるよなあ。本当にこれだけ必要なの？これじゃあ大学の予算が成り立っていかないよ。事務部門なんて外注

するとかさあ、経費節減の工夫が足りないのではないの？もっと効率性考えないと。

### ◆大学病院へ配置換◆

医療費が足りないって？診療を止めるわけじゃないじゃん。とにかく赤字になろうが薬は必要、医療機器は更新しなけりゃどうにもならないし。大学なり、文部科学省に予算要求しようよ。国立大学病院なんだから。

### ◆法人化◆

附属病院は病院収入のみで運営することが原則だよ。その運用は病院裁量でいろいろ工夫できるようになったよ。これからは運営だけじゃなく経営だよ。事務職員も意識改革が大事だね。でも相変わらず厳しい財政だよなあ。大学病院って診療だけではない

はず。これでは教育研究に廻せる余裕無いじゃん。

### ◆病院再整備◆

いい病院をつくろうよ。あれも大事だし、これも欠かせないよ。現場のドクターやコ・メディカルの意向をしっかりと把握した計画を策定しなければ。もちろん患者さんの目線を忘れちゃいけないよ。でも借入額はどうなる？返済計画大丈夫だろうね。

### ◆サービス業◆

患者さんが駐車スペースないって困ってるよ。受付窓口と支払窓口が長蛇の列になってるよ。あの患者さん何か悩みごとあるみたいだよ。この患者さんは不満一杯だと怒ってるよ。全部が全部うまくできないけど、まずはしっかりお話を伺わなければ。

### ◆多種多様◆

診療報酬制度が改正されたよ。医師等の負担軽減策に効果的な方策は？病院スタッフの処遇改善必要だよ。コ・メディカルだって足りないよ。病院組織の見直ししなくていいの。いろんな資料だってもっと「見える化」を図れないかなあ。研修医確保のための施策は？智慧をしぼらなきゃ。

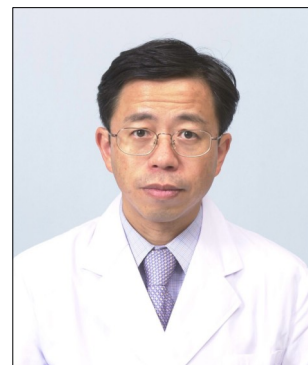
### ◆そして、これから◆

病院事務部を取り巻く状況は刻々と変化しています。業務の多様化とともに特に専門職化が顕著です。それには何よりも将来に向けた人材の育成が急務です。安全・安心で信頼される病院を目指すためには、事務職員の果たす役割と笑顔も重要です。

## 診療科紹介

## ●第一内科診療部門

診療部門長 戸邊 一之



第一内科は、糖尿病・内分泌、呼吸器疾患、リウマチ・膠原病を専門領域としています。この3領域はいずれも患者さまの数が多一般的な疾患領域です。それと同時に、その診療は専門性が高く、診断と治療の両面において近年目覚ましい進歩があります。第一内科では、より良い診療を目指して、特徴ある試みを行っております。そのうちのいくつかについて、ご紹介いたします。

## 糖尿病・内分泌

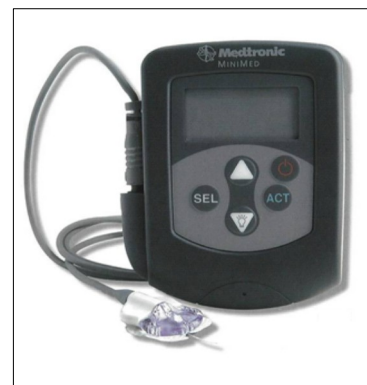
糖尿病は、遺伝的な原因と不適切な生活習慣の両方によって発症し、血液中のブドウ糖濃度（血糖値）の上昇を特徴とする病気です。

## ・CGMS（持続血糖モニタリングシステム）

血糖値を知るために、従来の方法ではその都度血液を採る（採血する）必要がありました。そのため血糖の変化を正確に知りたくても、最大で一日数回程度の血糖値を知ることしかできませんでした。

今回第一内科で導入した持続血糖モニタリングシステムでは、皮下に留置した電極を通じて血

糖値を5分ごとに計測し、連続3日間血糖値の変化を記録することができます。夜間の自覚しない低血糖の検出や、最適な治療法の決定などに威力を發揮します。現在は入院患者さんにのみ、実施しています。



持続血糖モニタリングシステム

## 呼吸器泌科

呼吸器科では気管支肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、肺癌、間質性肺炎といった呼吸器にかかわる様々な疾患を扱っております。

## ・超音波気管支内視鏡（EBUS/TBNA）

気管支・肺の病気では気管支内視鏡による生検診断を行っています。今年当科ではさらに診断率を上げるために県内で初めてとなる超音波気管支内視鏡を導入しました。これは縦隔、肺門など従来の気管支鏡では届かない領域のリンパ節に対して、内視鏡と超音波を組み合わせた形でアプローチできる技術です。この最新式の機器を利用す

ることによって、正確かつ早期から病気の診断がつくことが期待できます。



超音波気管支内視鏡

## リウマチ・膠原病科

リウマチ・膠原病は、自己免疫という免疫の異常によって発症する病気です。関節リウマチの治療では、旧来の方法に加えて「生物学的製剤」と呼ばれる新しい薬が登場してきています。

## 1. リウマチ教育検診入院

関節リウマチは、薬物治療にとどまらず状態に応じて手術療法、リハビリテーション、装具療法などさまざまな治療が必要です。第一内科では、整形外科や和漢診療科と共同で、月1回リウマチ教育検診入院を実施しています。関節リウマチに

限らず、生活習慣病検診などの全身の検診も併せて行い、一人ひとりに応じた総合的な治療方針の相談、療養指導を行っています。

## 2. 新世紀のリウマチ治療

今世紀に入って生物学的製剤と呼ばれる新しい治療薬が次々と開発されました。それらは、これまでの抗リウマチ薬に比べて非常に治療効果が高い薬です。これらの薬を効果的に使うことによって、日々の痛みから開放されるだけでなく、日常生活も普通の人と変わらないように送れる時代になってきています。



## ● 歯科口腔外科

診療科長 野口 誠

当科は歯や歯肉、顎（あご）など口腔領域を総合的に診療し、歯・口からの健康づくりを目標としています。

口腔外科的疾患では口の中だけの外科を扱うように思われがちですが、口腔、顎、顔面並びにその隣接組織に現れる先天性及び後天性疾患の全てを対象としています。具体的には口腔内にできる悪性腫瘍や良性腫瘍、顎や顔面の外傷や骨折、歯や顎骨に起因する炎症、顎骨にできた嚢胞、口腔内の粘膜疾患、顎変形症、顎関節疾患、口唇・口蓋裂などの先天性疾患、歯科インプラントを用いた治療など多岐にわたっています。

スタッフには口腔外科、歯科麻酔科の専門家を擁し、口腔外科、顎関節症、インプラント、有病者・障害歯科診療を積極的に行っています。

顎変形症や口唇口蓋裂患者の診療は、咬合、咀嚼、発音、顎発育などを考慮し、口腔外科、矯正歯科医、言語聴覚士との連携による一貫した治療システムを行っています。有病者などの歯科診療においては歯科麻酔専門医が常勤していますので、施術に際しては術中モニタリングを行い、全身管理に配慮し、安心、安全、安楽な治療をめざしています。



### 1. 口腔腫瘍

腫瘍は「正常な細胞から変化した異常な細胞が周囲を気にせず異常に増殖したもの」と言うことができ、体のあちこちに転移をきたす「がん」のような悪性の腫瘍から、良性の腫瘍までいろいろな性格のものがあります。口腔の腫瘍も同じように多様な性格があるため、それぞれの腫瘍に対して治療法が異なります。

当科では、腫瘍の根治性のみならず、機能温存や形態の回復、すなわち患者さんのQOL（生活の質）が可能な限り保たれるように、治療計画を立てています。

### 2. 口唇口蓋裂

唇だけに裂があるものを口唇裂、口の天井に裂があるものを口蓋裂、両方に裂があるものを口唇口蓋裂といいます。

口唇・口蓋裂では、哺乳障害、歯の欠損や歯列不正、顎・顔面の成長発育障害、構音障害（ことばの異常）、審美障害などです。しかし、現在では適切な時期に適切な手術、処置、訓練を行うことで、これらの障害を最小限に抑えることができます。高校を卒業するくらいまでの長期的な治療が必要となりますが、その間は、ほぼ健常児と変わらない日常生活を送ることができます。

### 3. 顎変形症

上顎あるいは下顎が前に出ていたり、逆に顎が小さくて上下の歯の噛み合わせが大きくずれている場合、あるいは顔が非対称で歪んでいるような場合は「顎変形症」と総称される病気である可能性があります。これによって、“受け口”などといわれ、審美的な障害に苦しむ患者さんも少なくありません。また、うまく噛めない、あるいは言葉がわかりにくいなどの機能的な障害がみられることがあります。



### 4. 口腔インプラント

虫歯や歯槽膿漏、外傷などで歯を失った部分の骨に人工歯根を埋め込み、見た目や噛む機能を回復させる治療法です。材質は現在、チタン製の物が主流になっており、埋め込む側の骨との結合を促進するためにアパタイトをコーティングするなど表面処理がなされています。1960年代にスウェーデンで応用が始まって以来、現在では著しい進歩を遂げ、口腔の機能回復を行う上で非常に有用な治療法のひとつとして挙げられます。



## 最新医療探訪

## ～ 最新型多軸血管撮影装置 ～

手術部 奥野政一

今年4月、手術部に新しいX線撮影装置が導入されました。シーメンス社（ドイツ）製の**多軸血管撮影装置**Axiom Artis zeego（ジーゴ）と言う名前の装置です。この装置は、日本の病院でもまだ数台しか導入されていない最新の装置です。手術においてX線撮影や、X線透視画像をその場で観察することは、高度な手術を行うためには非常に重要となります。X線画像に関する様々な新技術が組み込まれたこの装置は、手術室ではこれまで行うことが難しかった検査を可能にしました。

## 装置の特徴

この装置の名前に多軸とあるように、装置のいろいろな部分がロボットのように動き、様々な角度や方向からX線画像を撮影することができます。（写真1）従来の手術室に置いてあるX線の装置は、移動型であったため、どうしても小型化しなければならず、画質は手術に十分利用できませんが、満足のいくものではありませんでした。しかし、この装置は、固定型であるため装置は大きくなりますが、広い範囲の優れた画質を得ることができます。画質が良くなっているなら、放射線（X線）による被ばくが大きくなるのではないかと心配されるかもしれません。しかし、この装置には被ばく低減のための様々な技術が搭載されているため、画質を落とすことなく（むしろ向上させ）長時間の手術においても、少ない被ばくでX線画像を得ることができます。



写真1：手術直前の画像撮影に使われるジーゴ

## 術中撮影の利点

血管撮影装置とあるように、手術中に造影剤という薬を使って、血管のX線画像を撮影することもできます。大動脈のような大きな血管から、脳血管、心臓の血管などの細かい血管まで撮影することができ、従来の装置に比べ優れた血管の画像を得ることができます。また、今までの撮影装置では、二次元画像でしか撮影することができず、血管の場所、特に前後方向を把握することは困難でした。しかし、この装置のX線撮影部分を回転させながら撮影することによって、三次元画像を撮影することができ、より視覚的にわかりやすい画像を得ることが

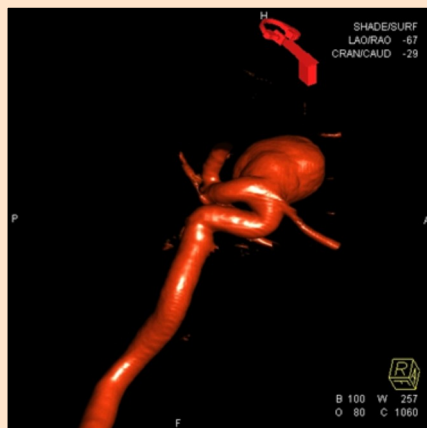


写真2：手術前の動脈瘤



写真3：クリップをかけた後

出来ます。この三次元画像からコンピュータ断層撮影（CT）のような輪切りの画像を作り出すこともでき、より細かい画像で確認することができます。この画像は、造影剤を利用した血管の撮影だけではなく、通常のX線撮影でも三次元画像を得ることができ、様々な手術で術中・術後の確認などに利用されています。

(写真2・3)

私ども手術部スタッフは、患者のみなさまにこの装置の活用も含め、高度な手術をより安全に、安心して受けていただけるよう努めてまいります。



## ナースステーションから

## ～救急部～

「誰かが倒れていて、声をかけても反応がない」

こんな場面に遭遇したらあなたはどうしますか！

「救急車が通り過ぎた」「救急車の音で目が覚めた」

こんな経験をされたことはありませんか？

ご存じのように、急病人を乗せた救急車がサイレンを鳴らして到着する場所が救急部です。

当院の救急部は昭和63年に地域に根ざした救急医療を担う2次救急病院として、さらに医学生・研修医、救急救命士の教育機関として設置されました。

また、平成15年から、災害医療の拠点病院として教育・啓発活動も行われ、命を救うという目標に向かって日々努力しています。平成21年度実績では、救急搬入数は1,545台、救急受診数は7,527名、救急外来からの入院患者数は1,364名でした。

現在、救急部には救急医師5名、看護師9名が配置されており、各科の専門医師と連携したチーム医療で、安心・安全で高度な救命救急医療体制を提供しています。24時間、老若男女を問わず、疾病・けが（外傷）・中毒・火傷などあらゆる症状を訴え、来院される患者さんに対して個々の病態に合わせた的確な診察・初動治療が行われています。

今後更に地域医療との連携を効率よく進め、救急医療の強化・充実につなげるためにも、住民一人ひとりが地域に「かかりつけ医」「家庭医」を持ち、適切な受診行動をとっていただけるよう願うものです。看護師は救命率の向上と、専門性のステップアップのために、年間を通じた部内トレーニングを企画し、知識・技術の習得・向上を図っています。

また、現在、病院再整備の一環として救急部の充実を図りセンター化する準備に入っております。救急部内は活気が満ちており、チームワークの良さ、笑顔と元気をモットーに確実な一歩を歩み続けています。



救急部所属の看護師



日々訓練を続ける看護師

## ～放射線部～

「放射線部ってどこどこ？」と思われるぐらい、放射線部には検査内容に応じた多くの検査室があります。皆さんがよくご存じの胸の撮影を行う【一般撮影室】、胃や腸の検査を行う【透視室】、その他に【CT撮影室】、

【MRI撮影室】、【RI撮影室】、【血管造影室】、【放射線治療室】などがあります。看護師は、【血管造影室】や【CT撮影室】で患者さんの検査介助を中心に行っています。昨年度よりCT処置室で外来患者さんの造影CT・MRI検査時の点滴注射も行うようになりました。検査技師28名、看護師7名、更に今年度より臨床工学技士の方が1名加わり、毎日安全に検査が行えるよう日々努力しています。



造影検査を前に血管確保する看護師



血管造影検査の準備をする看護師

# 特集

# 一人前の医師

## 研修医金子君の1日を追いかけてきました

金子君は内科医を志望しています。4月から6月までの3カ月は第3内科での研修を行っています。ここでは肝臓チームの1員として肝臓がんの患者さんを中心に診ています。



簡単な朝食を済ませ、自宅を出る。昨夜はワールドカップを見ていて寝不足気味。でも、いつもの時間に出勤。病院までは車で5分。

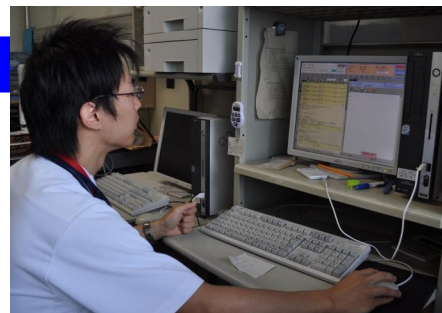
7:20  
いってきま〜す!



7:25  
着替えて、さあ、1日の始まりだ



7:30  
患者さんの記録を電子カルテで確認しています。昨夜の体温は？看護師さんの記録は？



## 17:30 イブニングセミナー 腹部エコー（レクチャーと実技指導）

イブニングセミナーでは医療技術について、先輩から多くの事を学びます。研修医は毎日が実践と研修の日々です。



19:00  
やれやれ、やっと開放です。今日からは1日お疲れさまでした。



指導を受ける金子君、患者役も研修医



16:00  
**病棟回診**  
医局長の先生に入院患者さんの経過を報告して、今後の治療計画について相談しています。

一人前の医師を目指して研修する2年間のうち、今後の金子君の1年次の研修予定診療科です。

- ・救急（1ヶ月間）
- ・麻酔科（2ヶ月間）
- ・第一内科（3ヶ月間）
- ・精神科（1ヶ月間）
- ・神経内科（2ヶ月間）



# を目指して **がんばれ！研修医**

7:45

△△さん、おなかの具合はどうですか？



金子君がフォローしている患者さんは4人。回診して患者さんの状態を確認します。

え～、△△さんの状態は・・・、明日には退院できるレベルだと思います。

8:30

**病棟カンファレンス**

チェックすべき患者さんの状況を説明します。先輩のいる前で説明するのは緊張するなあ！



12:00

腹へった！職員食堂で昼食。今日はチキンかつ定食。



**午前中は病棟業務**

- ・患者さんへのお薬について看護師さんの質問に答えたりします。
  - ・患者さんの検査の予定を立て、電子カルテにオーダ（依頼）入力を行います。
  - ・先輩と相談し、患者さんの薬の変更などを行います。
- その他、病棟ではいろいろな仕事があります。

そして、午後は・・・



麻酔は失敗が許されないから緊張するな～

アンギオ室にて指導医（左）に指導を受けながらカテーテルを挿入する金子君（右）



13:30

肝臓がん治療方法の一つである肝動脈塞栓術（TAE）の前に画像の最終確認を行う金子君。（鉛の入ったプロテクターを身に着けています）

食と健康

～ 夏の冷えにご用心! ～

栄養部

暑いからといって、クーラーのきき過ぎた部屋に閉じこもったり、冷たい飲み物や食べ物ばかりで過ごしてはいませんか? 近年、日常生活が便利になり、運動量が激減し、活動量が少なくなったことで熱を生み出せない身体になってしまっている人が増えていると聞きます。冷え症という自覚のない人の中にも平熱が36℃未満の『**低体温**』といわれる人が多くいるそうです。日本人の平均体温は、ここ50年で0.6℃下がったといわれています。体温が下がることで、身体に様々な悪影響が起きてきます。1つには、白血球の数が減少し、免疫力が低下し、風邪を引きやすくなる。もう1つには、熱産生が少ないために基礎代謝量が落ち、太りやすくなるということです。肥満になると糖尿病やメタボリックシンドロームなど生活習慣病が気になります。そんなふうにならないために、暑い時は汗をかくことで体温を下げる、寒い時は身体(筋肉)を震わせ、熱を作り出す本来の体温調整機能が低下しないように適度な運動を心がけましょう。そして、今回は食欲のない暑い夏でもおいしくいただける料理をご紹介します。

冷え防止対策

1. 熱を逃がさない

- ※ 首、お腹、足元など必要以上に冷さないこと。
- ※ 水分補給は、冷たいものばかりではなく、温かい物や常温のものも。

2. 熱を作り出す

- ※ 適度な運動で、筋肉を鍛える。
- ※ 食事は、3食規則正しく摂取しましょう(抜くのは禁物です)。
- ※ 食事は、バランスよく食べましょう。

食事やメニュー

- \* 『主食+主菜+副菜』を組み合わせるとりましょう!
- 食べやすい麺類やパンだけで済ませないで、魚・肉・卵・大豆製品などのタンパク質食品や野菜類を組み合わせるとりましょう。
- \* 冷房で身体が冷えている場合、加熱して、消化されやすくした野菜などをとると良いでしょう。
- \* にんにく、しょうが、唐辛子など身体を温める食材を利用し、食欲の低下を防ぎ、食事をしっかり食べましょう。

スパイシーカレー



卵雑炊の生姜あん



<材料> 4人分

- ・鶏ひき肉・・・200～240g
- ・玉ねぎ・・・200～240g
- ・ピーマン・・・80g
- ・グリーンアスパラ・・・120g
- ・にんにく・・・20g
- ・サラダ油・・・20g
- ・なす・・・120g
- ・唐辛子・・・2本
- ・カレールウ・・・60～80g

<作り方>

1. にんにくのみじん切りと唐辛子をサラダ油で炒め、香りを出す。
  2. 玉ねぎの粗みじん切りを加えて炒め、続いて鶏ひき肉も加えて炒める。
  3. 鶏肉に火が通ったら、お湯を加えしばらく煮込む。
  4. 火を止めて、カレールウを入れる。
  5. カレールウがとろけてきたら、再び火をいれ、煮込む。
  6. 好みのとろみ具合になったら火を止める。
  7. 皿にご飯、カレーを盛り、好んで揚げたなす、トマト、ピーマン、グリーンアスパラなどを盛り合わせる。(お好みで、なす、トマト、ピーマン、グリーンアスパラを煮込んでもおいしいです)
- \*唐辛子は、辛過ぎることもあります。お好みにより適量なところで取り出してください。

<材料> 4人分

- ・ご飯・・・150g×4杯
- ・卵・・・4個
- ・チキンスープ素・・・8～10g
- 【生姜あん】
- ・だし汁・・・適量
- ・しょうゆ・・・小さじ2
- ・すりおろし生姜・・・大きじ2
- ・片栗粉・・・適量
- ・みりん・・・小さじ1

<作り方>

1. チキンスープをつくり、煮立ったところへぬめりを取り、水分を切ったご飯を入れ、煮込む。
2. 煮立ったところへ、溶き卵を流し入れ、ざっくり混ぜ、火を止める。
3. だし汁にすりおろし生姜を入れ、しょうゆ、みりん、片栗粉を調え、水溶き片栗粉を加え、とろみが出るまでゆっくりかき混ぜながら煮込む。
4. とろみが出てきたら火を止めて、お茶碗に盛り付けた雑炊の上にかける。
5. お好みで、しその葉の千切りやすりおろし又は針生姜を添える。



**地域を支える開業医さん**

このコーナーでは本院に多くの患者さんを紹介していただいている地域の開業医さんをご紹介します。

**佐伯クリニック**



所在地 富山市栴谷200-2  
TEL 076-436-2311

**【診療時間】**

月/火/水/金曜 午前8:30～12:30  
午後2:00～6:30  
木曜 午前8:30～12:30  
土曜 午前8:30～12:30  
午後2:00～3:00

休診日は日曜、祝祭日、木曜午後



院長 佐伯好信 先生



**院長先生より一言**

昭和56年に信州大学を卒業後、当時の富山医科薬科大学第二外科に縁あって入局。その後、ここ栴谷に開院するまで17病院で様々な形（外科だけではなく内科、小児科、整形外科的なことまでトレーニング、研修、診療）の経験をさせて頂きました。次男坊にて長閑に過ごしておりましたが、両親の健康の関係から富山に落ち着いたため急遽平成4年に開院いたしました。「医は仁術、思い遣り」を信条に医療を志した初心を忘れないように、これからも地域に根ざして頑張りたいと存じますので宜しくお願い致します。

**こばやし耳鼻咽喉科クリニック**



所在地 富山市五福5242-6  
TEL 076-441-0116

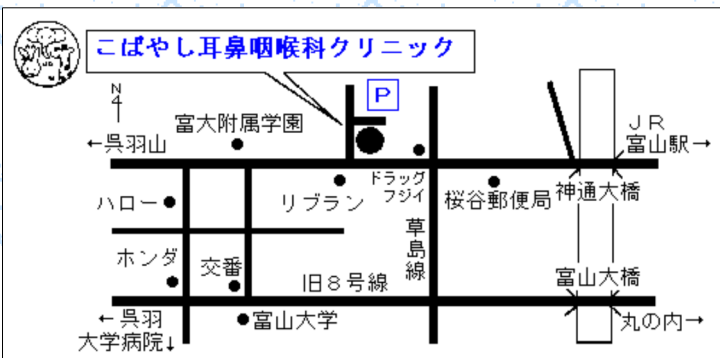
**【診療時間】**

月/火/水/金曜 午前9:00～12:00  
午後2:30～6:00  
木/土曜 午前9:00～12:00

休診日は日曜、祝祭日、木曜午後、土曜午後



院長 小林英人 先生



**院長先生より一言**

昭和54年10月の大学病院開設時より耳鼻咽喉科の教官に採用され、平成5年3月まで勤めていました。退職後17年経った今でも、当時あるいは現在の病院の職員や家族の方々に当院を受診していただき信頼を感じ、とても嬉しく思っています。大学病院には時間外や休日でも緊急や重症の患者さんを快く受け入れていただき、安心して地域医療に専心する事ができ、感謝しております。



地域連携研修会

～急性期病院と地域医療機関との連携～

6月21日（月）、多くの地域の先生方の参加をいただき、第23回地域連携研修会が開催されました。

今年度第1回目となる研修会では、遠藤病院長と医療福祉サポートセンター山城センター長のあいさつに続き、新しく参加された地域の先生を含め、参加者全員の自己紹介がありました。

続いて行われた研修会では「急性期病院と地域医療機関との連携」をテーマに在宅医療への取り組みに関し、以下のふたつの報告がありました。

1：「在医協とやまの取り組み」

河上内科医院 河上博康 院長

2：「在宅医療いみずネットワークの取り組み」

たかはし内科医院 高橋 徹 院長

報告の後、患者さんが安心して在宅医療を受けられる体制作りに関し、当院の先生方も交えて、熱心な意見交換がありました。

在宅医療を支える地域の医院にとっても、安心してまかせることができる大学病院の存在は大きく、今後も日頃からの関係作りを基盤として、病診の連携強化が求められています。

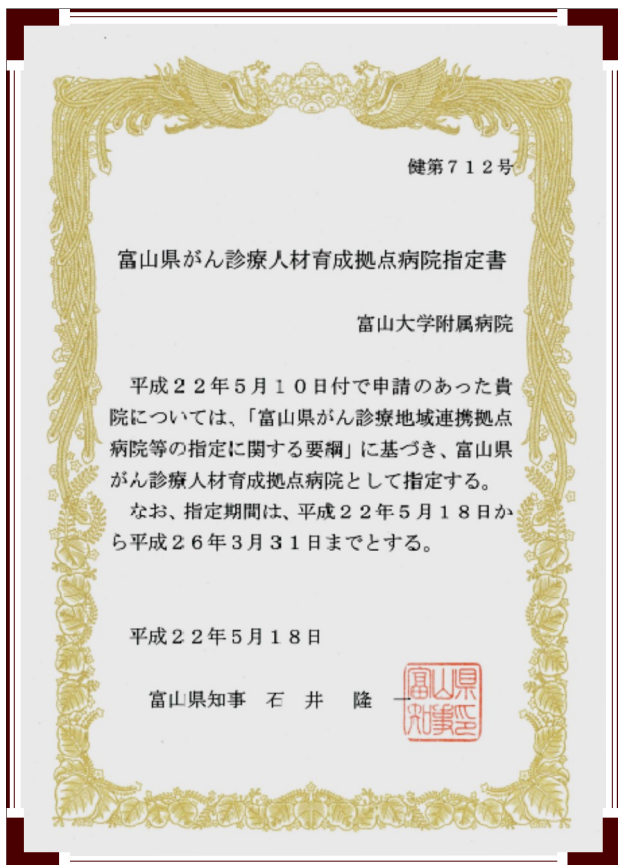
医療福祉サポートセンター



研修会の様子

「富山県がん診療人材育成拠点病院」に

平成22年5月18日、本院は「富山県がん診療人材育成拠点病院」の指定を受け、県庁にて石井知事より指定書の交付を受けました。富山大学附属病院は、医師・薬剤師・看護師の育成・教育を通して、富山県のがん医療の一翼を担ってきました。今回、「がん診療人材育成拠点病院」の指定を受け、がん診療のさらなる充実を目指して、教育・人材育成に力を尽くすべく、新たな体制作りと研修・教育のシステム作りを計画しています。



石井知事より指定書の交付を受ける遠藤病院長



患者さんへのお知らせ

医療サービスグループ

# 診療報酬算定項目が分る明細書発行について

平成22年度診療報酬等改正により、個別の診療報酬算定項目の分かる明細書を患者さんに無料で発行いたします。

※希望されない患者さんには発行いたしませんので、会計受付（5番窓口）時にその旨、お申し出ください。

※自動支払機でお支払いされた場合は希望者のみに発行いたしますので、お申し出ください。

※病名は標記しません。

※入院（包括）の場合は、投薬・注射・検査名が表示されます。

## 【発行見本（外来）】

### 診療費明細書

国立大学法人富山大学附属病院

〒930-0194

富山市杉谷2530番地

TEL 076-434-2281

患者番号	氏名
3456789	ヤマハ 花子 立山 花子

発行日	平成〇〇年〇月〇〇日
受診日	平成〇〇年〇月〇〇日
入外	外来
診療科	〇〇科
保険	〇〇

行為区分	診療内容	点数/金額	回数	備考
基本科	* 外来診療料	70	1	
在宅	* 在宅自己注射指導管理量	820	1	
	* 血糖自己測定器加算(月100回以上)(1型糖尿病患者に限る)	1320	1	
検査	* 生化学検査(I)判断料	144	1	
	* 血液学的検査判断料	125	1	
	* 検体検査管理加算(I)	40	1	
	* 血中微生物	40	1	
	* 生化学的検査 I (10項目以上), ALP, LAP, γ-GPT, CPK, ChE, Amy, TP, Ab, BIL/総, BIL/直	123	1	
	* 静脈採血	13	1	
画像診断	* 胸部単純X線 P(イ)デジタル撮影 半切(画像記録用) 1枚1方向 撮影回数(フィルムレス)画像電子化管理及び保存加算 1回 電子画像管理加算(単純撮影)	210	1	
処方せん	* 処方せん料(その他)	68	1	

以下余白のため省略



#### 【点数/金額欄の表記について】

薬の容器代、診断書など保険適用外のものは¥が付いた金額表示となります。

保険適用分は点数での表示（1点10円）となります。

## イベントコーナー

### 七夕コンサート

7月3日(土)、恒例の七夕コンサートが開催されました。富山県立大学と富山大学杉谷のコーラスグループが6年前に合同で作った合唱団「はるか」が「夏の思い出」「ふるさと」など皆さんがよくご存知の歌を聞かせてくれました。会場には90人近くが集まり、素敵なハーモニーに大きな拍手を送っていました。アンコールでは会場の人もいっしょに「川の流れのように」を歌い、楽しい夏のひとときを過ごしました。



合唱団「はるか」の歌声に聴き入る患者さんたち

### 人形劇

7月11日(日)、富山大学児童文化研究会による人形劇「まほう学校の日」が玄関ロビーで演じられました。がんの子どもを守る会も共催しています。人形の製作から舞台セットまですべて学生さんの手作りです。この日も多くの患者さんや家族が集まりました。



富山大学児童文化研究会のメンバー



### 図書館がやってきた

7月9日(金)、病院西口玄関横の駐車場に富山市立図書館の自動車文庫「よまんまいかー」がやってきました。この車は車イスでもそのまま入れるリフト付です。病院に入院している子ども達は図書館には行けないので、なかなか本を読ませてあげられません。そこで小等部の先生が市立図書館にお願いし、実現しました。8月は夏休みですが、9月以降も月1回のペースで巡回してきます。車の中はミニ図書館、こちらに来る時は子ども向け図書を中心に揃えてもらっています。



やってきたリフト付自動車文庫



車の中は図書館

### 編集後記 「病院交差点」

今年も七夕の季節となりました。附属病院では、毎年この時期に近隣の竹林から飾り付け用の竹を伐採し、玄関ホールに飾っています。

今年は、あいにくの梅雨空のなか6月18日(金)の夕方から、看護師や事務の職員で七夕設置の作業をしました。立てると手の届かなくなる竹の上部を中心にキラキラとした飾り物や短冊を取り付けた後、みんなで力を合わせて玄関ホールの柱に立てかけました。短冊は、職員だけでなく入院・外来の患者さんや病院を訪れた方などから広くお寄せいただいたもので、様々な願いや思いが書かれてあります。

結びつけた短冊の願いがひとつでも多く叶いますようにと祈りつつ、また、病院玄関がこの七夕により和やかな空間となって、応対する私たち職員も訪れる方のために頑張りたいと思っています。  
(病院広報室 K. T記)



七夕の飾りつけを行う職員



玄関ホールの七夕飾り